



官版

日耳曼史略

三

東洋書院
全

洋学文庫
文庫8
E237
3



文庫8
E 237
3



日耳曼史畧卷三目錄

第七編

弗郎哥尼亞家皇帝ノ事

第八編

紀元千百年間日耳曼景況ノ事

第九編

蘇亞維亞家皇帝ノ事

明治七年二月

日耳曼史畧

文部省



日耳曼史畧卷三

第七編

弗郎哥尼亞亞家皇帝ノ事

紀元千二十四年ヨリ
千二百二十五年ニ至ル

問新帝ノ選舉ハ如何ニ行ハレシヤ

答顯理二世殂シ後嗣ナク貴族是レニ依テ各

々虛位ニ登ランコトヲ希望シタルヲ以テ新ニ

後藤達三 譯

新帝選舉ノ會合ヲ萊因河ノ廣濱ニ開キ此處
ニヂユウク、コオント、マルグラーフ等ノ貴族
盡ク集會シタリシガ平常議會ノ儀容ニ非ス
シテ各幾多ノ軍隊ヲ率井來レリ

問顯理二世ニ誰カ相續シタルヤ

答前ノ如ク帝位ヲ希望スル者衆多ナルヲ以
テ會議遲延ニ及ヒ凡ソ六週日ヲ經テ稍ク決
定シ時ニメシツノ教大長ハ弗郎哥尼亞公官
拉多選舉セラレタル旨ヲ布告シタリケレハ

國民ノ喜悅大方ナラス各々萬歲ヲ謳歌シ貴
族モ總テ新主ニ別段主従ノ盟約ヲセントテ
朝覲ヲナセリ

問官拉多及ヒ世嗣ノ代日耳曼ノ事情ハ如何ナ
ルヤ

答官拉多二世及ヒ世嗣顯理三世ノ二代ニ於
ケル別ニ掲ク可キ事ナク唯波蘭恒加利波希
米亞ノ三國日國ニ叛レ之レガ為メニ断エス
戰爭アリシノミナリニ帝常ニ民心ヲ得タリ

シカトモ不幸ニシテ其下ニ強慾不臣ノ貴族
アリ多クハ政令ヲ輕侮シ屢國禁ヲ犯違シタ
ルヲ以テ強ヒテ此者等ノ不規ヲ改メシメン
トテ戦争ニ及シナリ

問此頃貴族一般ノ景況ハ如何ナルヤ

答當時貴族ハ其勢ヒ強大ニシテ皇帝ノ羈絆
ヲ脱カレ殆ンド獨立ノ勢ヒヲナシ皇帝ヲ佐
ケテ之レヲ守護スルモ又ハ叛キテ之レニ敵
對スルモ各自ノ好ム所ニ任セ軍ヲ擧ケ兵ヲ

起スルカアリテ防禦ニ便ナル險峻ノ地ニ城

砦ヲ築キ迭ニ戦争断エザリシ

問貴族許多ノ男子ヲ有スル者如何ニ之レヲ供
給セシヤ

答貴族ノ中富有ノ者少キヲ以テ数多シ男子

ヲ有ツ者ハ其内一人ヲ世嗣ト定メ其余ノ者

ニハ別ニ武器一完備ヲ給シ加ルニ若干ノ士

卒ヲ以テ其者ノ力ニ任セ外國ニ出テ侵伐シ

テ貨財領地ヲ掠取セシハ此事大ニ國ノ治

安ヲ妨ケシノミニテ毫モ取ル可キナカリシ
 ガ其後十字軍ト号シ亞細亞へ行軍ノ莫起リ
 初メテ之レヲ隊列ノ中ニ加ヘケレハ稍クニ
 シテ事用ニ當ツルノ路開ケシトナリ

問顯理三世何年ニ殂シ誰カ之レニ嗣キタルヤ

答顯理三世ハ紀元千五十六年ニ殂シ世子顯
 理嗣イテ立チ之レヲ顯理四世ト号ス此時未
 タ六歳ノ幼稚ナリシガ羅馬王ノ位ニ登リ日
 耳曼皇帝ニ選マレタリ

問顯理幼稚間ノ景状如何ナルヤ

答顯理母ヲアグ子スト云々此婦人日國ヲ管治
 スルノ度量ナシト雖モ頗ル才智アルヲ以テ
 顯理幼稚ノ間々政務并ニ教育ヲ專任セリ然
 ルニアグ子スハ不幸ニシテ久シク政權ヲ執
 ル能ハス顯理ノ伯父巴華里公及ヒ薩沙尼公
 ノ兩人婦人ノ執權ヲ廢シ幼主ヲ奪去シタリ
 ケレバアグ子ス已ムヲ得ス國ヲ逃レ羅馬ニ
 到リ此處ノ或ル菴室ニ入り徒ラニ光陰ヲ送

リタリ

問幼主政權ヲ執ルニ如何ナル所置ヲナシタルヤ

答曩キニ幼主教導ヲ受クルト善カラサル故
常ニ善惡ヲ擇マス己ノ私慾ヲ縱マ、ニス故
ニ今自ラ政權ヲ執ル可キ年齢ニ至ルト雖
常ニ遊惰ニ耽リ國事ヲ拋テ徒ニ臣下ヲシテ
上ノ放縱ヲ效ハシムルノミニシテ大イニ其
尊敬ヲ失ヒタリ

問新帝ノ惡行ニ由テ國內ノ景況如何アリシヤ

答新帝幼冲ノ間々貴族大イニ跋扈シテ主權
ヲ蔑視シ國禁ヲ犯剽掠ノ所業ヲ止メス殆ン
ド之レヲ制取スルノ術ナカリケレハ帝遂ヒ
ニ断然志ヲ決シテ先ツ薩沙尼ノ内ニ堅城牢
郭ヲ構ヘ之レニ數多ノ兵卒ヲ籠メ其國主ヲ
追放シテ國主ヨリ從來國人ニ許シ置ケル寬
典特恩ヲハ悉ク褫キ取リタリ

問薩沙尼人如何ニ怨恨ヲ結ヒタルヤ

答薩國ノ人民ハ前條ノ所置ヲ喜ハス皇帝ノ
 許ニ抗疏シテ云ヘラク皇帝若シ領主ヲ呼ヒ
 田シ従前ノ國典ヲ置キ新築ノ城砦ヲ毀テ侵
 掠ノ土地ヲ復ス等ノコトヲ許諾セザルニ於テ
 ハ余等速カニ反逆シテ帝位ヲ褫キ取ル可キ
 トノ旨ヲ言ヒ送レリ

問都人始メテ帶刀ノ權カヲ得タル其故ハ如何
 ソヤ

答短才無智ノ皇帝薩國ヘ對シ詭曲ノ辭ヲ以

テ答ヘケレハ國人忽チ憤激シ兵ヲ以テ顯理
 ノ宮殿アルゴスラルノ都府ヲ取圍ム皇帝進
 退此ニ谷キリテ殆キシト防禦ノカラ無ク潜カニ
 暗夜ニ乘シ逃レテウウオルムスト言フ都邑ニ
 抵リシガ土地ノ住民頗ル懇切ノ待遇ヲナシ
 皇帝ヲ救ヒ速カニ回復ノ軍備ヲナシタリ自
 此後則國ノ商人初メテ武器ヲ携フルノ許可
 ヲ得貴族ノ高賈ヲ賤ム舊習頓ニ消シ身分ノ
 區別廢止スルノ好機ヲ得タリ

問帶刀ノ許可ニ由テ貴賤如何ナル利益ヲ得タルヤ

答斯ル尊キ許可アル事令ハウオルムスニ限
ラス都テノ皇都一般ノ風トナリケレハ皇帝
ノ實益ヲ得ルト少カラスシテ令ハ自ラ指揮
スル人数衆多ニ至レリ加之遂ヒニ商人ト雖
モ甚々尊敬セラレシヨリ自然貴族商人ノ間
タ親近シテ互ヒニ婚姻ヲ取結フニ至ル實ニ
開化ノ成徳之レニ過ギス其故ハ都人等ノ往

昔ヲ原ヌルニ祖先ハ悉ク奴隸ナリシモ其子
孫ハ皆今日ノ盛運ニ至レハナリ
諸國人民自由或ハ貿易ノ利益ヲ得タル原
由ハ實ニ此時ニ在ルト謂フ可シ
問顯理四世ノ代ニ薩沙尼一般ノ景状ハ如何ナルヤ

答皇帝或ル貴族ノ援勢ヲ得強ヒテ薩國ノ人
民ヲ和セシメ曾テ同國ノ中ニ築キタル諸城
ハ依然ト存シ其内ニ数多ク兵卒ヲ籠メ

之ニ命シ繼マ、ニ掠奪シテ已等ノ資食ヲ給
セシム是ヲ以テ兵卒ノ乱暴至ラザル所ナシ
薩沙尼全國殆ント惡徒ノ餌食タリ親兵スラ
斯ル所業ナルヲ以テ其他ノ者固ヨリ憚カル
所ナク賊徒連リニ蔓延シ各黨中ニ一人ノ賊
首アリテ恣マ、ニ使ト号ス爰ニ一條ノ
珍說アリアダルペルトト号シタル賊徒ノ首
魁アリシガトレエブト云フ教長ノ領地ヲ侵
掠シ數多ノ貨物ヲ奪テ已ノ陣營ニ持退キタ

レハ教長及ヒ其從臣等如何シテカ此怨恨ヲ
報イント欲スレトト歸營ノ後モ朝廷ヨ
リ別ノ咎責モナカリケレバ強ヒテ鬱憤ヲ散
ントセハ却テ禍害ヲ招クニ幾カル可シ皇帝
其職ヲ盡サズ却テ惡行ヲ激勵スルニ由リ今
ニ於テ貨物ヲ回收センコトヲ願ヒ出ルト實ニ
其益ナカル可シト各思ヒ止マリケリ然ルニ
同シ寺領ノ内ニ住居シタルナト云ヘル
者ハ平生氣慨アル者ニシテ領主ノ耻辱ヲ雪

シトテ密カニ報復ノ計畧ヲ運シ其形ヲ變シ
アダルペルトノ營門ノ前ニ佇立シ門ヲ敲キ
テ之ヲ開カシメ一杯ノ酒ヲ乞ヒ求メケレバ
アダルペルトノ如キ殘惡ノ者ト雖モ待遇ノ
禮ヲ失ハズシテ其請フ所ニ任セケレバチイ
ユハ歡テ其酒ヲ飲ミ盃器ヲ返シテ城兵ニ告
テ云ク宜ク汝チノ主君ニ賜酒ノ恩惠ヲ謝ス
ベシ他日其之レニ報シント云テ歸路ヲ急キ帰
リ去リ教長ノ許ニ至リ再ヒアダルペルトノ

營中ニ進入ノ計策ヲ議セント同意ノ者ヲ語
合ヒシガ各チイコノ志ニ感シ之レヲ助力シ
俱ニ一計ヲ案シ得テ酒樽三十個ヲ取り其内
ニ兵士一人并外二人今ノ武器ヲ入レ各農夫
ノ姿ニ装ヒ一樽ヲ二人ニテ擔ヒチイコヲ以
テ頭目トナシ都合九十人賊營ニ至リケレバ
門者大イニ驚キ直チニ開門スチイコ番兵ニ
云ヒケルハ余等今日來訪シタルハ他ニ非ス
往日汝チノ主君ヨリ賜リタル盃ノ恩酒ニ

報イント欲シ且ツ主君貯酒ノ缺乏モヤアラ
ンカト深く注思シテ一樽ヲ齎ラシ来レリ此音
ヲ宜ク汝デガ主君ニ報スベシト門者諾シテ
内ニ入りシヲ見ルヨリ数人ニテ酒樽ヲ玄關
ニ舁入タリ未幾コオントアダルペルト自ラ
之レヲ出迎ヒ後ヘニ從フ臣下モ斯ル奇ラシ
キ贈リ物ヲ見テ各一杯ノ興ヲ盡サント心中
喜悅ノ形状ナリチイコハ何カ暗号ヲナスト
見ヘシガ忽チ酒樽ノ上蓋悉ク破レ其中ヨリ

甲冑ヲ鎧ヲタル兵士躍リ出今迄農夫ト思シ
キ者モ兼テ樽内ニ匿シ置キタル兵器ヲ神速
ニ取出シアダルペルト及ヒ彼ニ從フ賊徒ヲ
縦横ニ殺戮シ竟ニ其居營ヲ焼滅シタリレト
ズ
斯ル談話ハ實信シ難シト雖モ顯理四世ノ代
殘惡克暴ナル時世ノ情態ヲ寫シ得タルモノ
トス
問皇帝何故宗音ノ絶交ヲ受ケタルヤ

答皇帝短才無智ナルヲ以テ不幸ナル事トモ
 多ク授職ノ權トテ教長首師ノ家督ヲ命スル
 權柄ノ與奪ニ付爭論起リ羅馬法王是レニ由
 テ皇帝ヲ宗旨ヨリ絶交ス斯ル争端ノ開ケシ
 次第ハ皇帝ノ是權ヲ有スルモ又法王ノ有ス
 ルモ一ト回之レヲ掌握スル者ハ幾何ノ税息
 ヲ得以テ僧徒ヲ管治スル高權ナルヲ以テナ
 リ
 問前條ノ與奪ニ付テ起リタル寔大ノ事件ヲ舉

ケヨ

答皇帝是マテ此權柄ヲ領握スレトモ當時在
 位ノ法王グレゴリイ七世傲慢不遜ニシテ皇
 帝ニ迫リテ權柄ヲ退讓ス可キ由ヲ詰需ス顯
 理固ク之ヲ拒絕シタルニ由テ法王大ニ怒リ
 皇帝ニ絶交ヲ言渡シタリ顯理其後ハ罪科ノ
 償トシテ嚴寒ニ麻衣ヲ穿テ徒跣ニテ三日ノ
 間法王宮殿ノ庭上ニ佇立シタル苦責ヲ以テ
 稍クニ其罪ヲ免サレタリ

問皇帝謝罪ノ後何事ノ起リタルヤ

答皇帝謝罪ノ後日國ノ各邦多ク彼ニ叛キ竟
ヒニ之ヲ廢シ蘇亞維亞公ヲ選ミ帝位ニ即カ
シム然ルニ頭理ハ回復ノ為メ軍ヲ起シ法王
ニ讐セント欲シ大軍ヲ引率シ往イテ以大利
ニ進發シ直チニ羅馬ヲ圍ミシニ城兵頗ル勇
悍ニシテ能ク防禦ノ術ヲ盡シ幾ント二年ノ
間ヲ支持セシカ寄手ノ軍勢益加ハリ竟ニ之
ヲ掠取ス是ニ於テ府内ノ住民斯ル崇尊ノ大

都府ヲ一朝衰頽ニ歸セシコトヲ畏レ償金鉅萬
ヲ納レテ之ヲ贖ハンコトヲ歎願セシカハ皇帝
輒チ之ヲ承諾セリ

問此頃如何ナル奇異ノ戦争起リシヤ

答當時亞細亞東南ノ地方ニハ回々教ノ者興
起シテ耶路撒冷土月其ノ地ニシテヲ侵掠シ
タリケレハ佛國ノ教師ペエトル、ゼ、ヘルミソ
ト此地ヨリ逃レテ歐洲ニ立歸リ歐洲諸國ニ
遊說シテ邪宗輩ノ侵掠セシ地ヲ回復ス可キ

由ヲ專ラ王侯等ニ説勸メシカ佛日二國ノ者
之ヲ珍奇ノ事ニ思ヒ且ハ東方繁華ノ地ヲ見
ントテ貴賤トナク此役ニ左袒セシ者多カリ
シトナリ

問十字軍ニ出タル最初ノ黨ヲ擧ケヨ

答斯ル輕舉妄動ノ企謀ニ左袒シテ亞細亞ニ
進發シタル軍勢男女ヲ合セテ都合六万人ナ
リシカ殊ニ卑賤ノ者多クペエトルゼヘルミツ
ト真先ニ進マ宛モ狂人ノ羣ヲナス如ク各徒

跌シテ進發シ到ル處亂暴ヲナサ、ル無ク徒
黨ノ人數逐次ニ増加シ印國ヲ過キテ東方ニ
赴キケリ是レハ其後歐洲各國王侯ノ進發シ
タル十字軍ニ比スレハ其様大ニ異リタル者
トス

問十字軍ノ狂兵如何ナル暴行ヲナシタルヤ

答當時萊因河モツセル河ノ邊ニ居住スル數
多ノ猶太人曾テ此地ヲ以テ安居シ宗式ヲ執
行フノ場所トシ住居ヲ定メ珍奇ノ貨物等ヲ

貯蓄シ各商業ヲ營ミシカ今十字軍ノ起ルニ
當リ之ニ與ミスル蒙昧無智ノ兵卒偏ニ興師
ノ名義ヲ聲ラシ耶蘇教ニ外ナル宗派ハ盡ク
征伐セントノ事ヲ口實トシテ此地ニ在ル猶
太人ノ如キ無辜ノ人民ヲ殘刺ニ殺戮セシカ
幸ニシテ生命ヲ全ウシタル者アレドモ所有
物ハ殘ラス奪ハレ其住家マテモ悉ク燒滅
セラレタリ抑斯ク猶太ノ富商大賈ヲ害スル
事ノ發リタルハ全ク彼等耶蘇教ヲ信スルノ

赤心ヨリ生セシニ非ラス唯劫盜ヲ恣ニ為ス
ノ慾心ヨリ出タル者ナリ
問十字軍出張ノ戦士如何ナル所為ニ及ヒシヤ
答戦士等一同進ニテ蕃夷ノ恒加利ニ入りケ
ルカ此國ノ人民更ニ昔時ニ異ナラス無智殘
暴ニシテ大約耶宗ナルヲ以テ出張ノ戦士最
初先之ヲ服従セシメントテ此地ノ堂塔一字
モ殘ラス破壊シ其他仇視ノ舉動ヲナシタル
少ナカラザリケレハ國民大ニ憤リ之カ怨ミ

ヲ報ントテ舉部蜂起シ勢ト最モ盛ニシテ數
 千ノ戰士ヲ殺戮ス此時偶脫レテ亞細亞ニ走
 リタル戰士モ悉ク土耳其人ノ為メニ殺戮セ
 ラレ佛日ノ賤民ヲ以テ編成シタル三十萬ノ
 狂卒等率斯ノ如クニシテ更ニ其功ナカリシ
 カドモ是ヲ以テ後來十字軍ノ濫觴ヲナセリ
 後軍ハ佛日兩國ノ王侯ノ率井タル大軍ニシ
 テ之ヲ第一ノ十字軍ト名付ク
 問皇帝ノ太子宫拉多何故其位ヲ廢セラレタル

ヤ

答皇帝年老イ氣力衰フト雖モ此十字軍ノ起
 リシ頃ニハ親カラ臣族ト戦闘ヲ為ス如キ妄
 舉ノヲヲ發セシヨリ太子宫拉多モ遂ニ倫理
 ニ背クノ舉ニ及ヒ竊カニ父王ニ貳心アル臣
 族ニ荷擔シ以太利國王ノ尊位ヲ篡奪セシカ
 ハ皇帝其所為ヲ憤リ太子ヲ以テ天地ニ容ル
 可カラサルノ罪人ト布令シ次子顯理ヲ以テ
 羅馬王ニ選舉セリ

問顯理四世ハ何故ニ帝位ヲ廢セラレタルヤ

答皇帝ハ世子官拉多ヲ廢シ次子顯理ヲ羅馬
王ニ選舉セシカ顯理亦不肖ニシテ孝養ヲ盡
サス斯ク高位ニ登ルト雖モ之ヲ以テ足レリ
トセス陰カニ帝位ヲ希望ス故ニ皇帝亦之ヲ
廢セリ然ルニ顯理ハ其後父ニ迫ツテ之ヲ或
處ニ幽囚シ遂ヒニ寶位ヲ降ル迄最モ殘酷ノ
所置ヲ行ヒタリ此時皇帝ニハ悽然トシテ傍
ヲノ衆庶ニ向ヒテ心中ノ苦情ヲ訴ヘケレハ

顯理其父ヲ惡ムノ意愈々強ヨク此ニ於テ皇
帝寶座ヨリ推シ下サレ華冠ヲ褫取ラレ逆子
顯理ニ戴カシムルニ顯理ハ更ニ憚ル氣色ナ
ク欣然トシテ父ニ代リ寶座ニ着キケリ廢帝
流涕襟ヲ濕シ自ラ曰ヘラク我レ實ニ教旨ニ
悖リ聖戒ヲ犯ス事少ナカラス天罰免レ難ク
斯ル頑愚ノ男兒ヲ生シタリ然ルニ神明又斯
ル不孝不義ノ兒ヲシテ安穩ニ其世ヲ終フル
トヲ得セシムルカト聲ヲ放ツテ之ヲ罵リタリ

顯理四世廢位圖



皇朝通志

卷三

文部



皇朝通志

卷三

十七

文部

皇朝通志
卷之三十三

顯理四世ノ諸罪過ヲ舉クルニ天賦ノ惡質ナルヨリハ其教育ノ惡キニ依レルヲ以テ彼ノ患難ヲバ人皆之ヲ憐ミケル

問顯理四世晩年ノ景状ハ如何アリシヤ
答顯理四世晩年ニ至リシ頃ハ誰モ彼ヲ眷顧スル者ナカリケレハ今ハ榮々タル究寒ノ躬トナリ衣食モ自由ニ給スル能ハス遂ニ至尊ノ躬ヲ卑下シテ寺院ノ樂士トナランヲ需メシカトモ教長之ヲ拒テ聽サ、リシトゾ

時ニコロヲン今普魯士ノ内ノ國民顯理ノ如此落魄ヲ怜ミ之ヲ援テ正統ノ皇帝トナシ義兵ヲ舉

ケンヲ圖リ猶黨與ヲ募ントテ皇帝ト共ニ尼達蘭和蘭比時耳及合ニイゼルランドニ到リシカ皇帝不幸ニシテ紀元千百六年此處ニ於テ殂シタリケレハ遂ニ彼等ノ義舉モ空シクナリタリ

儲顯理五世ノ人ト為リハ他ヲ論スルニ及ハス不孝ノ一事ヲ以テ其性質ノ惡シク且無道ナルヲ知ルニ足レリ然ルニ記者ノ中ニハ彼

皇朝通志 卷之三十三 六

ヲ悪シキ王者トセザルアリ是レハ顯理固ヨ
リ好ミス可キ者ニアラスト雖モ唯國政ヲ行
フ上ニテオカアルトノ謂ヒナル可シ

問顯理五世ハ英吉利ニ於テ如何ナル姻屬タル

ヤ

答顯理ハ英王顯理一世ノ公主マチルダヲ嫁
リタルヲ以テ英王ノ女婿タルナリ

問皇帝ト法王トノ争鬪何ニ由テ起リタルヤ

答顯理五世ノ時ヨリ波布^ス斯^ル堡^ス侯^ス囉^ス德^ス爾

福即位ノ頃迄凡ソ百六十年ノ間皇帝ト法王
トノ争鬪ハ畧前文ニ記スルガ如ク授職ノ權
ニ関スル趣意ヨリ起ルモノナリ蓋シ法王ニ
ハ皇帝ヲ選フトテ發言スル權アリテ又皇帝
ニハ法王ヲ選フノ權アリトシ互ニ不遜ナル
ヲ以テ遂ニ其間ニ隙ヲ生スルトトナレリ
問皇帝前ノ授職ノ權ヲ要メシトテ如何ニ強迫
セシヤ
答皇帝即位ノ後頗リニ法王授職ノ權ヲ奪フ

ノ謀計ヲ企テ親カラ大軍ヲ率^ル井^ル亞力伯山ヲ
 越エ羅馬ニ侵入セシカ頭理ハ法王ノ容易ク
 服從セサルヲ察シ忽チ兵卒ニ令ヲ下シ法
 王ノ本殿セントヘエトルノ寺院ヲ襲撃シ法
 王竟ヒニ囚虜トナリテ日人ノ陣營ニ送ラレ
 軀ニ創傷ヲ受クル如キ殘暴ニ遇ハスト雖モ
 實ニ至尊ノ躬ヲ汗スノ耻辱ヲ受ケタリ頭理
 元來入子トシテ其父ヲ弑セントスル悖逆不
 道ノ人ナレハ况テ教法師ヲ殺害セントスル

又更ニ忌憚スル所ナカリケリ

問法王囚虜トナル後羅馬ニ於テ如何ナル事件
 ノ起リシヤ

答羅馬人法王ノ為メニ義兵ヲ擧ケ王師ト猛
 ク街衢ニ戦ヒシカ其軍利アラズ殺傷夥シク
 有リタリ然ルニ又日耳曼全國ノ人民直チニ
 謀反ノ色ヲ形シ一擧シテ皇帝ニ迫ラントセ
 シカハ皇帝頃刻モ寢席ヲ安スルヲ能ハス故
 ニ羅馬ト戦ヒ勝シモ畢竟許多ノ利益ヲ得サ

皇曼史略 卷三

リシトナリ

問法王ノ論議如何ニシテ困難ノ中ニ累連セシヤ

答曩キニ法王幽囚ヲ脱レシカ幾クナラスシテ薨去セシニ其徒皇帝ニ議ラス相續人ヲ選テ法王ヲ立シニヨリ皇帝之ヲ聞テ天ニ激怒シ此ノ所為ヲ以テ空虚ノ選舉トナン自ラ選ム者ヲ以テ真ノ法王ト定ム可シト布令セシカトモ皇帝ノ獨斷ニ依テ法王ヲ選ムトノ確

定セサルヲ以テ真ノ法王ヲ定ムルト難ク此事僧徒ト皇帝トノ間ニ起リタル戦争中常ニ連累シテ困難トナリタリ

問日耳曼以太利ノ兩國如何シテ以前ノ如ク和約ヲ結ヒタルヤ

答日以ノ戦争暫モ止ム時無リシカハ竟ニ兩國ノ人民之ヲ厭ヒ日ニ治安ニ復ラントテ好ミ凡ノ教長三百人僧徒七百人羅馬ニ於テ會議ヲ開キ從來法王ノ有シタル授職ノ権勢ヲ禮

皇曼史略 卷三

世

文部省

儀ヲ盡シテ皇帝ニ讓リ遂ニ和約ヲ取結ヅリ

問顯理五世ノ歿セシハ何頃ナルヤ

答顯理五世ハ紀元千百二十五年ニ歿シ彼レ

カ在位中ノ最大ノ事件ハ前文ニ記載スル者

ニシテ且此君ヲ以テ佛郎哥尼亞家ノ統權完

ク終リタリ

第八編

紀元千百年間日耳曼景況ノ事

問顯理五世ニハ誰カ嗣立セシヤ

答顯理五世ハ其一門中最モ庶流タルヲ以テ

殂落ノ後通例ノ如ク新タニ選舉ノ議會ヲ設

ケ薩沙尼公路泰兒ヲ踐祚ニ適當シタル者ト

シテ之ヲ選舉スル事トハナレリ

問許多ノ貴族如何ニ主權ヲ蔑視シタルヤ

答當時諸公等ニハ往時ニ増リ專權暴威ヲ逞

ウシ自ラ王者ノ號ヲ僭シ皇帝ノ統御ヲ遵奉

スル者ナシ又皇帝トシテ惟其躬万乘ノ至尊

ニ在ルト雖モ貴族ニ對スル際ニ於テハ實ニ

有名無實ノ者ニ等シク殊ニ巴華利亞公ノ公務ヲ所置スル時ノ如キハ宛然王者ノ所為ニ異ナラス常ニ身邊近ク其佩劍ヲ捧ケシメタリ

問皇帝ノ躬ニ如何ナル困難ノアリシヤ

答當時皇帝ノ專ラ困難苦慮セシハ波蘭ノ叛状ヲ移シ國王常ニ帝威ヲ侮慢シタル事ニシテ又日國ノ所屬朗霸地世々累卵ノ危キヲ為シ且歐洲北人益其勢ヒ熾ニシテ魁首ギイス

カルドト稱スル者カラブリア國以テ伐ツテ之

ヲ侵掠シ以國南部ノ諸領殆ンド北人ノ手ニ落チ推シテ日國ノ諸領ニ及ボシ皇帝之ヲ維持ス可カラサル景情ニ至リシ事ナリ當時日國ノ貴族自國ノ以外ニ其軍ヲ行ル事ヲ好マズ殊ニ以國ハ卑濕ノ地多クシテ每ニ健康ニ害アレハ之ヲ忌畏スル最モ甚シク此時ニ乘シ同國ノ士民頗ル勢威ヲ張り將ニ日國ノ統御ヲ脱レントス

問備後ノ兵隊如何ナル者ニシテ何故ニ之ヲ散起シタルヤ

答大小貴族各大小諸國ニ領主タルヲ以テ封建ノ恩徳ニ報スル為ニ軍役ヲ勤可キナリニ當時皇帝ノ權威四隅ニ彌フス故ニ以國ノ後ニ於ケル僅カ四十日間ノ短キト雖モ領主ハ皇帝ニ要シテ出陣中ノ糧食旨酒并ニ相當ノ金額ヲ供給セザレハ出征セザリシニ且從臣等ニ至リテモ主人ニ等シク供給ヲ受ケザ

ルニ於テハ亦從行スルヲ欲セス此ノ如ク封建ノ名義アリテ皇帝本意ヲ擡ル能ハス已ムヲ得ス金銀ヲ出シテ軍兵ヲ雇役スルトハナレリ

問傭兵ト常備兵トノ分別如何ナルヤ

答前ノ如ク編成シタル軍勢自ラ常備兵ト異リタルハ則チ止戦ノ後悉ク之ヲ解散セシムルナリ然レトモ其後亦之ヲ雇ハザルニ於テハ忽チ盜賊ニ變シ屢國家ノ障碍ヲナセシガ

何圖ニ如此一時ノ損害トナリタルモノ却テ
世ノ幸福ニ變換シテ速カニ常備兵ノ濫觴ヲ
ナシ是ヨリ従前ノ古制ヲ除去シ常ニ治亂ノ
差別ナク許多ノ兵卒ヲ供給シテ終ニ國家ノ
扞蔽ヲナセリ

問傭兵ヲ採用セシテアリシヨリ府民ノ為メニ
如何ナル効驗アリシヤ

答傭兵採用ノ効驗ト云フハ戦争ノ時世一變
シテ貿易ノ時世トナリ人民之ニ依テ糊口ノ

生業ヲ營ムヲ得又上下人民品位ノ區別ヲ廢
止シ是迄貿易ヲ以テ賤業ノ事トナシタル従
来ノ固弊頓ニ止息シタルヲ以テ府民次第ニ
尊敬セラレ自以後ハ彼等國會ニ名代人ヲ選
拔スルノ權ヲ有スルニ至レリ

問千百年間家屋造立ノ習風ヲ擧ヨ

答此頃府民ノ家屋ハ悉ク木材ヲ用ヒ別ニ便
利ノ者ヲ擇ハス家具モ優美ノ品ナク唯大商
富賈ハ其房舎ノ四壁ニ花氈ヲ掛ク或ハ之ニ

羅曼史略
卷三

摸擬シテ屋壁ヲ彩色シタル者アリ又貴族ハ
幽深ナル城營ノ内ニ居住シ平常飲食饗宴ヲ
盛ニシ縦ニ遊興娛樂ヲ盡ス_{トナレトモ}適領
主猶太國ニ出征ノ_{トアレ}ハ婦女能ク城營ヲ
留守シテ更ニ紡織刺繡ノ_{トヲ}懈タラス或ハ
時ニ琴瑟ヲ弄シテ歡娛ヲ為スト雖モ敢テ宴
飲放縱ニ流レス空房日夜悄然タリ總テ日人
ハ常ニ飲食ヲ節セサルノ風アリテ皇帝即位
ノ時ノ如キモ猶誓盟ノ條中ニ之ヲ擧テ曰皇

羅曼史略
卷三

帝タル者ハ平常宜シク過飲放心ヲ禁スベシ
ト然ルニ貴族等ハ之ニ異ナリテ猥リニ酒ヲ
飲放縱自恣ニシテ屢暴虐ノ所行ニ及ベリ

問當時ノ服制ヲ擧ヨ

答當時ノ衣裳多クハ中古ニ彷彿タル者ニシ
テ外衣ハ其前部開ケテ膝下ニ垂レハラリガフニ套衣帽巾
ニ至テハ人ノ等級ニ從テ物品自ラ等差アリ
木綿帛布絨皮ヲ用フ貴族ハ之ニ金銀ヲ以テ
美麗ニ刺繡セリ

羅曼史略
卷三

羅曼史略
卷三

皇朝通志 卷三十三

問當時旅行ノ為方如何ナルヤ

答此頃ノ旅行ニハ未夕馬車ノ類無ク旅人常ニ馬或ハ騾馬ニ乘テ旅行セシカ十字軍ノ戦士初メテ挑床ト稱スル稍美麗ノ品ヲ東方ヨリ歐洲へ齎ラシ歸レリ其形ヲ轎ノ如ク前後ニ二馬ヲ繫キ其間ニ二本ノ竿アリ之ニ鞆繩ヲ結ヒ付タル者ニシテ唯婦女病人ノミ之ヲ用ヒ来リシカ道路平坦ナラス馬車ヲ用ヒ難キ地ニテハ甚夕便利ナルモノトシテ歐洲諸

國ニ於テ之ヲ用ヒシナリ

問驛程ニ旅店ヲ置カス旅人如何ナル場所ニ宿泊セシヤ

答當時驛程ニ旅店ノ設ナク旅人大概寺院ニ宿泊ス又王侯ノ城營ト雖モ旅人ノ投宿ヲ冀フトアレハ其求需ニ任セ之ヲ貸與ヘタリ斯ル風俗アルヨリ推シテ旅行ノ景况ヲ考ヘ之ヲ今日ニ較フレハ旅行ノ者甚夕稀少ニシテ猶太國參詣ノ者ナイツエルラント

周遊并ニ武士

皇朝通志 卷三十三

文部省

皇史略 卷三

文部省

兵士等ノ外ハ無カリシナリ

問 プラテンブルグ貴家ノ起立如何ナルヤ

答 此地ニ於テ當世重事ノ一ツトス可キハ即チ

フランデンブルグ家ノ造立ニシテ其来次ヲ

尋スルニ薩沙尼家ノ苗裔ニテ阿伯麥^{ホオ}ト

言フ者アリシカ皇帝此人ヲフランデンブル

グト云フ小侯國ニ封シ始メテフランテンブ

ルグノ貴家ヲ創立セリ

問 阿伯麥^{ホオ}ニ異リタルハ如何ナルヤ

答 阿伯麥ハ勇畧衆ニ擢テ屢波羅的邊境ノ斯

拉法^ラ泥^ニ種族ヲ伐テ之ヲ平定シ地ヲ擴メテ

以テ強大ノ國ヲナセリ

問 路恭兒二世ノ殂落如何ナル異常ノ事ナルヤ

答 皇帝路恭兒紀元千百三十八年ニ方ツテ日

國ヨリ以國へ歸ルノ途中巴カ伯山中ノ草廬

ニ於テ頓カニ病ヲ得テ殂落セリ是ヨリ永キ

内亂ノ端ヲ開キタリ

路恭兒二世ノ代ニ當テ天大ニ旱シ川澤乾涸

皇史略 卷三 共 文部省

シ生草枯死シ馬牛渴斃シ國中到處赤地多シ

第九編

蘇亞維亞皇帝ノ事 紀元千百三十八年ヨリ千二百五十四年ニ

問路恭兒二世殂シ誰カ帝位ヲ希望スル巨魁タ

答路恭兒頓ニ殂シ嗣子ナク之カ為メニ寶坐

一時空虚トナリケレハ之ヲ覬覦スル者數多アリテ遂ニ大騷亂ヲ釀成セリ其中ニ王位ヲ

踐ム可キ適當ナル者ニ入アリ

ノ姪蘇亞維亞佛郎哥尼亞ニ國ノ領主官拉多

ニシテ一ツハ先帝ノ女婿巴華利亞薩沙尼ニ國

ノ領主顯理ナリ

問所領相續ノ風儀如何ナルヤ

答此頃所領相續ノ風儀ニ男子ノ家督入ナキ

者ハ其女ノ夫タル者ニ先代ノ領地ヲ改メテ

賜ルノ規則アリ故ニ帝位相續ニ於ケルモ亦

此法ヲ執リ行フヲ當然トスル者アリ或ハ帝

位ハ殊別ノ者タルニ依テ是法ヲ推及ス可カ
ラストスル者アリ

問帝位相續ノ爭論如何ニ決定シタルヤ

答皇帝選舉ノ議論前ノ如ク一定セサリシガ
漸ク衆議決リテ蘇亞維亞公官拉多ヲ推シテ
即位セシメタリ是レヲ以テ巴華利亞ノ領主
顯理日夜憂鬱ニ堪ヘス今ハ劍戟ヲ以テ其宿
志ヲ遂ケント密カニ用意ヲナシテハ皇帝
之ヲ聞テ大ニ怒リ直チニ嚴命ヲ下シ巴薩西

國ノ内一ヲ没入ス可キ旨ヲ言渡セリ然ルニ

顯理ハ是ノ令旨ヲ奉セズ愈不服ノ景况ナレ

ハ皇帝今ハ寛大ノ所置ニ處シ難シトテ公議

ノ上兩國共ニ没入ス可キ由ヲ布令シ遽カニ

巴國ヲ以テ顯理四世ノ孫奧地利亞ノマルグ

ラーフニ與ヘ薩國ヲ阿伯麥ルネオニ賜ハリ

又

問巴薩ノ與奪ニ依テ其歸結如何アリシヤ

答廢公顯理ハ皇帝嚴酷ノ布令アルヲ聞キ憤

皇史略 卷三

德遣ル所ナク忽チ謀反ヲ企テ戦争ヲ起セシ
ガ未タ幾クナラスシテ死去シタリケレハ其
弟彼カ遺旨ヲ繼テ戦争ヲ止メス乃チ皇帝ニ
自己ノ宿怨アル西西里王ロゼルノ應援ヲ得
ルトトハナレリ

問ゲエルフス名 黨ジベリンス名 黨ノ名高キ戦ノ起原
如何ナルヤ

答官拉多ハ阿伯麥ヲ以テ薩國ニ封ゼシガ廢
主頭理ノ男頭理ライ勇悍善ク戦フ人之ヲ稱

シテ獅公ト云フ已ニ父ノ遺領ナル薩國ニ在
テ毫モ皇帝ニ服従セス必死ニ防戦シタリケ
レハ阿伯麥ハ一旦其國ヲ賜ハリシモ唯名ノ
ミニシテ實ハ我所有ト為スト能ハザリシ
此戦争ヨリ日以兩國ニ著名ナル二黨ノ濫觴
ヲナセリ是ハ其後千四百年代ニ英國ニ起リ
タル紅白薔薇ノ二黨ノ如キ者ナリ英國貴族
斯得爾ノニ紳家アリ迭ヒニ戦ヒ亂約克ノ作シ蘭ノ加
家ハ其記号トシテ白薔薇ヲ用ヒ蘭家ハ紅ヲ
用ヒ以テ黨派
ノ別ヲナス

皇史略 卷三

三十一 文部省

日耳曼史略 卷三

問如何ナル黨與ゲルフスシベリンスノ名ヲ稱シタルヤ

答元來ゲルフスハ薩沙尼公ノ姓ナルヲ以テ顯理ノ黨之ヲ名稱シ又ジベリンスハ皇帝ノ從子軍務總督蘇亞維亞公コレテリッ啡哩特ノ城名ナルヲ以テ是ヲ皇帝方ノ稱トス後以國ニ於テ皇帝ト法王トノ戰爭起シ時モ尚此二名ヲ用ヒテ黨派ノ差別ヲ為セシナリ

問二黨ノ戰爭如何ニシテ罷ミタルヤ

答此戰爭久シク罷マザリシカ一奇事ノ故ニ因テ終レリ其故ハ皇帝薩國ノ内ワインスベルグノ城ヲ取圍ミシガ顯理ノ叔父此處ニ在テ堅固ニ守衛ス然レトモ城兵一戦ニ敗績シ殺傷頗ル多カリケレハ城主ハ大ニ畏蹙斗急ニ降ヲ納レテ寬宥ノ所置ヲ仰キタリ官拉多固ヨリ殘暴ナル者ニ非サレハ敵ノ不利ニ乘シテ翦滅ヲ縱ニスル事ヲナサス却テ使ヲ城中ニ遣ハシ城主及ヒ重臣等ノ退城スルヲ

法蘭西

日耳曼史略 卷三

三十一 收部省

許セシニ城主ノ夫人之ヲ心許ナク思ヒ若シ
 主君重臣等ノ城外ニ出時ハ必然敵ノ為ニ囚
 虜トナランコトヲ疑懼レ別ニ夫人ヨリ帝ノ許
 ニ使者ヲ馳セ自身ヲ始メ城内ノ婦人咸ク其力
 ラニ任セ各々所持ノ物品ヲ運ヒ此地ヲ退去
 シテ安穩ノ地ニ出ルノ許可ヲ乞ヒケレハ皇
 帝異議ナク之ヲ許諾シ此者共ノ出立ヲ目撃
 セントテ重臣并ニ兵卒許多ヲ從ヘ城ノ近傍
 ニ到リ今ヤ婦人等ノ必ス珍器寶物ヲ携ヘ來

ラント待チ居タリシカ頓テ城門ノ開クニ及
 シテ之ヲ見レハ何ソ圖シ衆多ノ婦人各其夫
 ヲ脊ニ負ヒ最モ辛苦ノ形状ニテ次第ニ進ミ
 來リシカハ皇帝之ヲ見テ大ニ婦人ノ節義ニ
 感シ直チニ和約ヲ陳説シ再ヒ顯理ヲ立テ舊
 領薩國ニ封シタリ

問セント、ベルナルドハ如何ナル人ナルヤ

答セント、ベルナルドハ佛蘭西ノ産ニシテ佛
 王及ヒ日耳曼帝へ新タニ十字軍ヲ企ツ可キ

由ヲ遊説シタル者ナリ

問新十字軍ニ関スル王侯ハ誰ナルヤ

答ペルナルドノ勸メニ由テ此舉ニ荷擔シタル者ハ即皇帝官拉多及ヒ佛王路易七世ノ兩君ニシテ彼等速カニ其旨ヲ國中へ布告セシカハ忽チ慄悍ノ人民等之ニ響應シテ旗下ニ雲集シ是ヲ以テ大軍ヲ編ミ其勢凡三十萬人皇帝之ヲ將井日國ヲ進發ス蓋シ此頃日國ノ全戸ヲ算スルニ工匠商賈ノ輩ハ甚夕少ク國

問民過半ハ常産無平日鬪争ヲ以テ事トスル無頼

ノ徒ナレバ即今十字軍ノ出發ニ及ヒ斯ク大軍ヲ擧クルノ容易ナルモ固ヨリ其所ニマ敢テ驚疑ス可キニ非ザルナリ

問官拉多ノ出征ハ如何ニ終リシヤ

答官拉多ノ出征大ニ利アラズ軍勢過半ハ希臘ニ於テ流行病ノ為メニ死亡シ又ハ土耳其人ニ殺傷セラレ皇帝止ムヲ得ス殘兵ヲ纏ヒ本國ニ歸陣セシガ預メ意中ニ期シタル功名

日曼史略 卷三 三

モ徒ニ畫餅トナリシヲ深ク嗟歎シ遂ニ病ヲ
發シテ歿シタリ

問官拉多ノ歿落ハ何頃ニシテ誰カ之ニ相續セ
シヤ

答官拉多紀元千五百五十二年ニ歿シ從子^{コト}啡哩

特^{ロツサ}之ニ嗣ゲリ是即チ日耳曼皇帝ノ中

ニテ最モ英名ノ一人ニシテ性質沈毅能ク難

ニ勝チ傲慢ノ貴族ヲ壓ス可キ人君タリ

問壤地利亞國ノ起原ハ如何ナルヤ

答頭理薩沙尼ヲ領シ曩キニ皇帝官拉多^バ國

ヲ頭理ノ父ヨリ禱ヒ之ヲ壤國ノマルグラ

ノ理伯ニ與ヘシカ尚頭理之ヲ回復センコトヲ

請ヒ望ムニヨリ皇帝之ヲ聽ルシ改メテ頭理

ニ巴國ヲ與ヘ理伯ニハ其償ヒトシテ壤地利

亞附庸ヲ以テ巴國從前ノ版圖ヲ除キテ之ヲ

與ヘ別ニ獨立ノ一小國ヲ創建シ此人ヲ以テ

同國ノ始祖トナシタリ

問頭理如何シテ領地ヲ失ヒシヤ

三十五 歐那省

皇朝通志 卷三十三

答顯理斯ノ如ク鉅大ノ二國ヲ併領シ威權盛大ニシテ奢侈榮耀ヲ極メ驕慢日ニ募リケレハ遂ニ人臣ノ分ヲ忘レ皇帝ヲ廢スルノ隱謀ヲ企ツルノ嫌疑ヲ受ケタリ縱令此事ハ真ニ有サルモ其他及逆ノ罪ヲ証スル原因數多ナルヲ以テ終ニ議事堂ニ呼出サレ爰ニテ追放ヲ言渡サレ盡ク其所領ヲ沒収セラレタリ
問顯理此布令アルヨリ如何ナル所為ニ及ビシヤ

答顯理素ト驕慢不遜ヲ以テ更ニ此嚴罰ヲ奉セス遽ニ已ニ從フ臣下ヲ集メテ謀及ヲナシ爾後此戦争ニ凡ソ三年間ヲ支ヘシトゾ
問顯理ハ皇帝ニ如何ナル事ヲ盟テ其罪ヲ許サレタルヤ

答顯理ハ皇帝ヨリ追放ヲ受ケ英國ニ到リ一兩年ノ間此處ニ滞留セントテ盟ヲテ漸ク逆罪ヲ赦サル右追放ノ間其子ノ食邑ニブロンスウソキトル子ンブルグノニケ處ヲ備ヘ置キ

皇朝通志 卷三十三

三六 敬部省

皇朝史略 卷三

タリ

問英國ノ顛理追放ノ地ト為タルハ何故ナルヤ

答顛理ハ當時ノ英王顛理二世ノ女ヲ娶リタルノ姻戚アルヲ以テ之ヲ追放ノ處ニ定メタリ

問顛理ヨリ如何ナル有名ノ名族起リシヤ

答顛理ノ諸子ノ中一人フロンスウヰキ家ノ起立人タルヲ以テ當今ノ英王ノ名族ハ顛理公ノ子孫ナリトス

問顛理ノ追放ニ由リ如何ナル騷亂起リタルヤ

答既ニ顛理追放セラレシカハ今ハ噠馬國人虎口ノ危キヲ遁レ其虚ニ乘シテ屢薩國ヲ侵撃ス且此頃噠王亦皇帝ニ叛シ印國ノ附庸苛拉斯天并ニ其他ノ属國ヲ縱ニ侵掠シ遂ニ大戦争ヲ醸スニ至レリ

問顛理追放ノ後日耳曼全國ノ地方如何ニ區別ヲ為セシヤ

答顛理ノ追放ニヨツテ亦日國々郡ノ區別及

皇朝史略 卷三 三十七 歐亞省

諸王ノ屬地大イニ變更ス 顯理ノ領地實ニ廣
 大ニシテ薩巴西國ノ都府今已ニ皇都ノ列ニ
 入リシガ尚此國ヲ割テ數多ノ新國ヲ建創シ
 タル故ナレバナリ且々其中後ニ重要廣益ノ
 場處トナリタルハ盧卑略及ヒレチイスボン
 ノ二都ニシテ即チ盧卑略ハハンセ、タラン
 自由ノ起本ニシテ最モ盛大ナル者ナレハ爰
 都府ニ其設立ノ由来ヲ概言ス可シ
 官拉多二世凡ソ即位ノ二年ニ當リテノルダ

ルヒングノ國主アドルフスト云者波羅的海
 ノ小半島ニ住スル斯ラ法ニ亞ノ一種族
 ヲ攻撃遂ニ其土地ヲ奪領ス最モ此半島ハ通
 商貿易ヲ為スニ好地タルヲ以テ商船來泊ニ
 適スル港口ト為ス可キ地形ヲ擇ミ茲ニ一ツノ
 都府ヲ建造シ之ヲ盧卑略ト名付ク此都府初
 メハ甚タ廣大ナラス且造營ノ急遽ナルヲ以
 テ家屋ハ止木材ノミヲ用ヒテ造營セシヲ以
 テ甚ハダ粗惡ニシテ堅固ナラス然ルニアド

ルフスハ此ノ都府ノ近隣ニ眷属ヲ率井来ル
可キ由ヲ和蘭及ヒフランドル發蘭德ノ農民ニ諭シ土地
分配ノ免許状ヲ與ヘシカハ速カニ開拓ノ路
開ケ人家充塞シ竟ヒニ居民各數艘ノ船舶ヲ
所有スルニ至リ忽チ繁盛殷賑ノ都邑トナリ
於是テ隣國都府ノ貿易ハ之カ為メニ殆ント
衰微ノ景況ニ及ヒシカ其頃顯理公ハ全國ヲ
管領シテ是迄ル子ンブルクノ貿易ニ於テ利
スル所アリシト雖モ斯ク盧卑略ノ繁盛ナル

文部省

ニ依テ此都府大ニ損耗ヲナスト少カラザリ
シカハ其損ヲ補ンカ為新都ノ半ヲ讓授ス可
キ由ヲアドルフスニ懇望セシカドモアドル
フスハ之ヲ拒ンテ更ニ殊受セサルニヨリ顯
理大ニ怒リテ食物ヲ除クノ外總テ商品ヲ盧
卑略ノ内ニテ鬻賣スルヲ禁スルノ令ヲ下セ
リ其後未幾新都火災ニ罹リ多ク灰燼トナリ
タリ是ニ於テアドルフス盡ク之ヲ顯理ニ讓
リケレハ顯理復ヒ此地ニ諸民ヲ住居セシメ

ンカ為メニ貿易禁制ノ箇條ヲ廢シ收稅局并ニ造幣局ヲ造立シ或ハ北方ノ各國ニ信ヲ通シテ當地ニ賣品ヲ運輸ス可キヲ報告セリ盧卑略ハ日國ノ中ニテ最モ多祥ノ都府トナリ且ツ顯理公獅退放ノ頃ハ前ニモ言フ如ク當府薩沁尼ノ管屬ヲ免レ自由ヲ得テ皇都ノ等ニ昇リタリ

問 啡哩特ノ在位ハ幾箇年ニシテ其ノ晚年ニ發リシ事件ハ如何ナルヤ

答 啡哩特ノ在位三十八年ニシテ其間ハ國中ノ景况前時ト異リ大ニ治安寧靜ナリシカ帝ノ齡七十ニ垂トセシ頃世ニ名高キ埃及王ラジンナル者聖廟耶蘇墳墓ヲ云ノ地ヲ壞亂シ宗徒ヲ翦殘シタルトノ注進フルニ依リ皇帝大ニ憤激シテ直チニ十字軍ノ進發ヲ企タリ此時既ニ耶路撒冷ノ都府ハ全ク埃及王ノ手ニ落チ又エシテラックノ國民ハ悉ク降参ラ乞ヒ宗徒ハ既ニペレスチインヨリ追却サレントス

日耳曼史略 卷三

ルノ景况ナリシカハ羅馬法王クレメント三世之ヲ憂ヒ歐洲一般へ布告シテ十字軍ヲ興ス可キヲ促シ斯ノ戦隊ノ列ニ加ル者ニハ法王ヨリ耶蘇ノ記號ナル十字形ヲ畫キタル記牌ヲ附與シ各之ヲ外衣ノ襟邊ニ結ヒ着ルトニシテ即チ啡哩特ハ此ノ記牌ヲ最先ニ受取り速カニ日國ノ貴族及ヒ宗徒ト共ニ兵士ヲ率井テ進發セシカ何モ銳氣勃々トシテ此モ前ノ敗北ニ畏怖スルノ景状ナカリシトゾ

問此十字軍ヨリシテ日耳曼ニ如何ナル益ヲ得タルヤ

答日國貴族此征討ニ付キ各軍需及華麗ナル武具ヲ整備セシカ為メニ是迄ノ條例ヲ一變シテ其城下ヲ自由ノ都府ニ改メ此允許ノ報トシテ若干ノ軍用金ヲ徵收シタリ是等ノ事全ク十字軍ノ跋端ヨリ盛ニ行ハレ既ニ封建ノ制度ニ拘束セラレタル各都府ニ至ルマテ今ハ富饒ナル自由都府トナルニ至レリ

日耳曼史略 卷三

早一 文部省

皇史代略 卷三

皇史代略 卷三

問啡哩特十字軍ニ進發シタルノ景状如何ナルヤ

答啡哩特耶路撒冷ノ發行ニ當リ後事ヲ悉ク太子ニ委子共ニ國中ヲ巡視シ其後ヲ帝ハ竟ニ亞細亞ニ向テ進發ス此役ニ於テ英吉利王カ查一世モ亦頗ル奮闘銳戦ニ及ヒタリ然ルニ帝ハ英王到着ノ前已ニ撒羅先人ヲ討テ屢勝利ヲ獲タリシカ何ソ圖ラン誤テ或ル小河ニ落テ溺死シタリケリ

問啡哩特ノ溺死ヲナセシハ何年ニシテ誰カ其後嗣ニ選マレタルヤ

答啡哩特ノ殂落セシハ紀元千百九十年ニアリ太子ハ羅馬王タリケルガ直チニ日耳曼皇帝ニ選ハル之ヲ顯理六世ト云フ

問以太利人ト戦争ノ起リシハ何故ナルヤ

答顯理六世雙西西里ト呼ヒナス西西里及ヒ那不勒王ノ嗣女コンスタンスヲ嫁レリ然ルニ此夫人ノ父ノ薨去ニ方テタンクレットト

皇史代略 卷三

皇史代略 卷三

言フ貴族此虚ニ乘シ西西里ヲ篡奪ス是ニ依
 テ帝トタンクレツトノ間ニ戦争起レリ此戦
 争ノ間日國ノ兵卒ハ勿論帝躬ヲモ共ニ剽輕
 殘暴ノ舉動ニ及ビシヲ以テ遂ニ以國ノ舉民
 帝ヲ以テ殘忍無道ノ國君ト謂フヘリ
 此頃顯理公英國ヨリ歸國シ曾テ所有ノ國土ヲ
 回復センノ計畧ヲ企テシカ事遂ニ成ラス
 稍クニシテ世襲ノ地フロンスウイッキ及ヒル
 子ンフルグヲ領スルヲ以テ枉テ自ラ甘ニス

ルトナレリ
 問此時ニ方テ英吉利王ニ付キ如何ナル變異アリシヤ
 答此時世ニ方リ英王力查一世十字軍ヨリ歸陣ノ時壞地利亞ヲ經過セシニ兼テ彼ニ怨恨アル國主理伯ノ為メニ拘執セラレテ皇帝ノ許ニ送ラレシトナリ此事詳カニ英國史ニ記載有ヲ以テ爰ニ擧ケス
 問當時日耳曼ニ於テ如何ナル驍騎黨社ヲ取り

皇國史記 卷三

文部省

建シヤ

答曰國ノ驍騎黨社ノ創立ハ當時顯理六世ノ
 關シタル十字軍ニ出来タルモノニシテ日國
 ニ於テ此社友ヲ稱シテ之ヲチユウトニツク
 ナイツチユウトニツク會社專田人ヲ以テ編
 スルヲ以テ斯ク名ト云ヒ後ニ之ヲテンブラ
 付ケシモノナリト云ヒ後ニ之ヲテンブラ
 一ルト稱シ最モ世ニ著名ナリシトナリ抑此
 社友ノ起原ヲ推考スルニ其頃ペレスチイン
 ノ中ニ在ルエ工井クルト云都府撒羅先人ニ圍擊

セラレシ時不來梅盧卑略兩府ノ居民此危急
 ヲ救ハントテ戦闘ノ病人或ハ病者ヲ療養ス
 ル會社ヲ設ケシ故ニ戦士大ニカヲ得テ奮闘
 ヲ為シタリ已ニ帝以國戰爭ヨリ歸陣ノ後此
 社友ヲ以テ一種テレブラールノ體裁ニ倣ヒ
 チユートニツクナイツト云フ新タニ軍事法教
 ノ會社トナシテ其弟ヲコブレンツニ創立
 ス
 問チユウトニツク、ナイツノ異常ナル如何ナル事ヲ

皇國史記 卷三

四十四

文部省

ナシタルヤ

答チユウトニツクナイツハ上ニ一人ノ社頭アリテ之ヲ支配ス數度ノ十字軍ニテ大功ヲ顯ハシ又普魯士國ノ部落クウノルラントリイ
 一ニヤヲ征伐シテ異端ヲ驅ツテ大ニ聲譽ヲ得其國ニテ許多ノ土地ヲ占メ遂ニ日耳曼以北ノ膏腴ノ地ヲ總領シタリ

問題理六世ノ殂落何年ニシテ爾後帝位相續ノ法則如何ニ變革セシヤ

答頭理六世ハ紀元一千百九十八年ニ殂シ在位總カニ七年太子啡哩特幼冲ナレ氏特ニ選舉ノ會議テク嗣イテ皇帝トナレリ其故ハ先帝在位ノ間已ニ國會ニ勸テ爾後帝位ヲ世襲トス可キ制令ヲ發行セシメタルニ由レリ

問斯ル規則ノ舉行ニ由テ如何ナル事件ノ起リタルヤ

答帝位相續ノ規則先帝ノ意ノ如ク決定スルト雖モ當時後嗣幼冲故其成人ニ及フマテハ

之ヲ輔佐スル為メノ攝政官ヲ置サルヲ得サ
ルニヨリ其職ニ任ス可キ人選ノ議論起リシ
カ此時攝政官ヲ選舉スル黨分レテ二トナリ
一方ハ幼帝ノ伯父蘇亞維亞公非立ヲ選ミ一
方ハ既ニ死去セル頭理公獅ノ男ヒリッスブロンスウイ
ツキ公オージヲ選ムオージハ英吉利王カ查
ノ甥タルヲ以テ法王ノ彼ヲ助勢セシ如ク叔
父モ又タ之ヲ扞蔽シタルヲ以テ攝政官ヲ閣
キ實ニ皇帝ニ選マレ別ニ踐祚ノ規則ニ拘ハ

ラス即位シタリケレハ非立選舉ノ黨是ヲ聞
キ直チニ又彼ヲ帝位ニ昇セテ之ニ附屬シタ
ル故皇帝遽カニ三人ニ及ヒ又迭ニ法王ヲ選
舉シタルニ由テ是モ亦三人ニ至レリ

問争亂如何ニシテ平定セシヤ

答一旦國家騷亂ニ陥リ諸民方向ヲ失ヒシカ
幾ハクモナク非立ハ暗殺セラレ遂ニブロンス
ウイツキ公オージ日耳曼全國ニ主タリ此時ニ
方テ誰一人ノ幼帝啡哩特ヲ顧ミル者ナク幼

帝ハ母コレスタニスト共ニ以太利ニ在テ往時彼カ即位ノ地ニシテ母氏ニ由緒アル西西里ヲ嗣承セシトナリ

問新帝オゾハ何故西西里ニ攻入り其不在ノ間ニ如何ナル事起リシヤ

答オゾ四世ハ固ヨリ暴虐ノ君ナレハ既ニ啡哩特ノ諸領ヲ篡奪スルト雖モ慾心厭ク下無ク尚西西里モ印國ノ附庸トナシ啡哩特ノ隨從セシテヲ需メシニ啡哩特固ク拒ンテ肯

セス是ニ依テ新帝之ヲ征伏セントテ速カニ西西里ニ進發シタリシニ不圖モ此不在ノ間ニ驃馬王ワルゲメルゲレ躬カラ苛拉斯天ヨリリウヲニヤニ互レル波羅的全海岸ヲ押領シテ之ニ主タルノ大變ヲ生セリ

問啡哩特ハ如何シテ復ヒ帝位ニ登リシヤ

答オゾソ帝位ニ登リシ後專ラ自國ノ政務ヲ抛チ只以太利ノ國事ノミニ關係シタレハ日耳曼ノ人民大ニ不快ニ懷ヒオゾヲ廢シテ

已ニ成人ノ啡哩特ヲ回復シテ帝位ニ登スベ
キトテ決シ速カニ之ヲ招キケレハ啡哩特之
ヲ肯カヒ進ンテ日國ニ赴キタリ然ルニ尚ホ
オーゾニ属スル衆多ノ殘黨亞カ伯山道ニ埋
伏シテ啡哩特ヲ要撃セシト待チ居タリシニ
啡哩特ハ夙ニ此謀計ヲ知リ密カニ人跡ナキ
嶮路ヲ攀チ難ナク日國ニ達シケレハ國民ノ
悦ヒ大方ナラス直チニ啡哩特復位ノ旨ヲ國
中ニ布告セリ故ニオーゾハ已ムヲ得ス今ハ

戦鬪ノ念慮ヲ絶チ舊領ブロンスイツキニ遁世
シテ常ニ讀經ニノミ光陰ヲ消セシトナリ
問即位ノ禮ヲ執リ行ヒタルハ何年ニシテ又其
場處ハ何レノ處ナルヤ
答啡哩特二世ハ紀元一千二百十五年ニ於テ
エイラシヤペエルニ於テ即位ノ儀式ヲ執リ
行ヒタリ
問皇帝後難ヲ避クルガ為メニ如何ナル處置ニ
及ヒシヤ

答皇帝即位ノ時ニ方リ後難ヲ防カントテ西
西里ト日耳曼トヲシテ必ス合併スベカラザ
ル由ヲ羅馬法王ト約定シ竟ニ西西里ヲ以テ
太子ニ譲リタリ

問啡哩特二世ハ如何ナル人ナルヤ

答啡哩特二世ハ其頃著名ノ一人ニシテ廣ク
六國ノ言語ニ通シ且ツ詩歌ニ長シ大ニ文學
ヲ興隆シタル者ナリ

問此頃日耳曼貿易ノ景况如何ナルヤ

問答此頃日國ハ貿易最モ繁盛ニシテ啡哩特二

世在位ノ初年ニコローンノ商人等已ニギユ

イルトホール日人ノ會所ト稱スル町會所ヲ英國

倫敦ノ中ニ造營シ其許可ヲ英國ニ得ルニ凡

三十マーク我千八百八十許リノ金額ヲ同國ニ差出

セリ

此頃多クノ海賊波羅的海ニ漂泊シテ國民ノ
貨物ヲ奪掠シタルニ由テ日國各都府ノ商人
之ヲ防カントテハンセチツクリーク即チ前
文ノハ

ンセタラント云フ自由都府ノ組合ニシテ此
 會社ヲ初メテ起シタル者ハハンブルグ并ニ
 盧卑略ニテ其レヨリシテ貿易日ニ盛ニナリ
 利ヲ得ル倍夥多ナリシカハ歐洲諸國ノ都府
 モ之ニ加入シテト稱スル名高キ同盟會社設
 同盟トナレリ
 ケアリケレハ先是ニ倫敦ニ營ミタル會所モ
 當今ニテハ日國商人ノ住處トナリタリ今爰
 ニ擧ル者ハ只會社ノ原由ノミヲ畧言シタル
 ニ依テ若シ之カ事實ヲ詳ニ知ラント欲セハ
 宜シク北方諸國ノ史ニ就テ索ムヘシ
 問皇帝ノ法王ト確執ヲ生セシハ何故ナルヤ

答皇帝啡哩特即位ノ時法王ニ約スラク自ラ
 十字軍ニ進發シテ靈地ニ到テ之ヲ拯ハン
 ヲ以テセント然ルニ皇帝令ニ至テ此言ヲ食
 ミ更ニ其用意ヲ為サ、リケレハ法王怒リテ
 其不信ヲ咎メ宗門中ヲ除キテ絶交ノ罰ヲ言
 渡シケレハ皇帝此嚴罰ヲ深ク恐レ速カニ出
 兵ノ用意ニ及ヘリ然レトモ固ヨリ傲慢ノ人
 ナレハ進發ノ前ニ法王ニ謝罪セス其儘進
 テトレミイスニ到着セシカ此後ニ出勢ノ諸

人皆皇帝ヲ以テ刑餘ノ人トシテ之ニ協カス
 ル者ナク初メ皇帝ニ附從シタル驍騎ノ人數
 總カ百人ニシテ他ノ王侯ノ如ク大軍ヲ引率
 セサルヲ見ハ出師ノ初メヨリテンプラール
 スチユフトニツクナイツ、ナイツヲフセントジ
 ヨン等社友ニ皇帝依頼セサルノ道理ナキニ
 社友ノ者摠テ帝ヲ其社中ニ加ヘルヲ為サ
 ビリシ者ナルヘシ

問十字軍ノ効驗如何ナルヤ

答此十字軍ノ効驗ヲ見ルニ實ニ怪ム可キ事
 ニテ他ノ帝王ハ夥多ノ兵卒ヲ率井シカ之ニ
 較フレハ啡哩特ノ勢至テ僅少ナリシ然ルニ
 其軍數至難ニ遭フト雖モ遂ニ拔羣ノ戰功ヲ
 奏シ埃及王ヨリペスレヘムナザールス及ヒ
 耶路撒冷ノ部分ヲ獲テ之ト和議ヲ調ヘ赫然
 タル勝主ノ威名ヲ帶ヒ歐洲ニ歸リ法王ト和
 議ヲ結ヒ直チニ日國へ凱陣セリ或人ノ説ニ
 皇帝斯ル奇異ノ軍功ヲ奏セシハ惟勇氣ノ傑

出シタル事々ニ歸スルト言ヒ亦一説ニハ
 皇帝ト埃及王ノ間別ニ或ル密約ヲテシタル
 事ヲモ^志聽セシト云フ

問此時ニ日國ノ富饒ヲ増セシハ如何ナル故ニ
 由リタルヤ

荅啡哩特既ニ亞細亞地方ノ王侯等ト和約ヲ
 結ヒシヨリ日國ノ商人等各海陸ノ遠路ヲ經
 テ印度ノ隔地ニ到リ其國民ト賣買貿易ヲ通

セシニ一二年ヲ經テ其功成就シ夥シク財物
 ヲ得タル故帝ノ得分トシテ駱駝十二足ニ金
 銀ヲ駄負シ皇帝ニ進獻シタリケレバ帝又之
 ヲ以テ英吉利王顯理三世及ヒ同人ノ弟コル
 シウエル公カ查ニ精帛并ニ其他貴價ノ物品ヲ
 贈リ且ツ十字軍ノ勞役ヲ犒フ為メ十萬オン
 ス我ニ萬四千貫及此金凡
 トハナリヌ

問啡哩特二世晚年ノ事情如何アリシヤ

答皇帝晚年ニ至リ專ラ以日西國ノ國亂ニ其
 日ヲ過セリ其故ハ法王トノ和睦永續セス帝
 再ヒ宗旨ノ絶交ヲ受其位ヲ廢セラレシカ帝
 更ニ其罪ニ服サ、リシニヤ自ラ誓テ曰苟モ
 手ニ一刀ヲ提テ其躬ノ防禦ノ届ク間ハ決シ
 テ寶位ヲ避ケマヅト宣言セリ

問 啡哩特二世殂シタル歲月并ニ其場ヲ舉ヨ
 答 スル 勇敢無二ノ皇帝不幸ニシテ一千二百
 五十年ニ當テ チーブルス 那不里斯ニ於テ殂セリ

問 皇帝以日西國ヲ繁榮ノ地ト為シタルハ如何
 ナル故ニ由レルヤ

答 啡哩特ハ曾テ那不里斯ニ一箇ノ大學校及
 ヒ數多ノ小學校ヲ設ケシトアリ故ニ此時以
 國ノ諸部日國ニ属シ皇帝日國同様ニ此國ヘ
 モ文學ヲ隆盛ニセシト亦知ル可シ

填地利亞都府 維也納ノ大學校ハ啡哩特始メ
 テ設立シタルモノナリ且許多ノ皇都ニ多ク
 ノ新規特恩ヲ施與セシカ就中最モ貴重ス可

キハフランキホルトノ居民ニ爾後帝ノ一致
ナク其女ヲ婚姻スルノ許可アリシヲナリ
問當代ニ何レノ蠻夷入寇シテ如何ニ之ヲ追御
セシヤ

荅啡哩特二世在世ノ間是迄歐洲ニ聞エサル
韃靼人ト言フ人種アリシカ初メ俄羅斯ニ入
寇シ遂ニ恒加利波蘭等ノ國中ヲ亂暴ニ及ヒ
シカハ皇帝深ク是ヲ憎ミ同宗者ノ王侯等ニ
書ヲ寄セ俱ニカヲ戮セテ已ニ歐洲西方ニ侵

入シタル此夷賊ヲ殘餘ス可キヲ謀リシカ
此頃會皇帝羅馬法王ト争端ヲ開キシ時ナレ
ハ他ノ王侯等ハ法王ニ憚リ之レニ左袒スル
者ナカリシカハ皇帝已ムヲ得ス日耳曼人ノ
ミヲ率井テ之ヲ伐テ俄國マテ追却セリ
凡テ此卷中處々ニ羅馬法王トノミ記載ス
ルハ全ク一人ノ法王ヲ言フニ非ス逐一其
姓名ヲ記ルサル故ハ法王ノ位ニ昇ル者
ハ大概老年ナレハ歳久シク職ニ在ルヲ稀

ナル故ニ國君一代中ニ法王ハ數度代替リ
アリ即チ啡哩特二世ノ一代ニハ法王數易
リ其數凡ソ六人ニ下ラス是ヲ以テ逐一姓
名ヲ記スモ亦煩シキカ故ニ其法王ノ別ニ
大事故有者ニアラサレハ之ヲ記ルサス今
皇帝ヲ絶交ニ及ヒタル法王ノ姓名ホノリ
ウスナルカ又ハグレゴリイナルカ是等敢
テ至要ノ事ニ非サレハ今之ヲ識別セス以
太利國史ヲ讀ムニ方テ斯ル法王ニ就テ種

問啡哩特二世殂シタル後帝位相續ニ依テ如何
ナル騷亂起リシヤ

荅啡哩特二世ヲ以テ蘇亞維亞家末世ノ帝ト
ス其故ハ太子官拉多嗣イテ皇帝ノ尊稱ヲ受
ケジヘリンス黨ノ者彼レヲ奉承スト雖モギ
ユルフスル皇帝ニ敵スト稱スル法王味方ノ者
共ハ帝ノ殂シタル前已ニ和蘭侯維廉ヲ皇帝
ニ選シ帝位ヲ踐ンテ争ヒシカハ官拉多モ亦

實ニ日耳曼ヲ管領スルヲ能ハス
 在位四年ニシテ歿シ其後ニ幼稚ナル一人ノ男子ヲ遺シ
 タリ此嬰兒ノ不幸ナル事情ニ於テハ次編ニ
 譲リテ爰ニ記ルサス

市川清流 校

日耳曼史畧卷三終

